

教員のファシリテーション能力向上のための授業見学型の実践的研修

人間文化学部国際文化学科 富田 和広

1 事業の目的

アクティブ・ラーニングは、中央教育審議会大学教育部会でも学士課程教育の質的転換の確立のために必要であるとされ、本学においても、平成26年度「大学教育再生加速プログラム」(アクティブ・ラーニング)に採択され、アクティブ・ラーナーを育成することを目指しているところである。そして、アクティブ・ラーニングの実施のためには教員に高いファシリテーション能力が要求される。しかし、教員がその種の能力向上のための実践的研修を受けることは少ない。また、アクティブ・ラーニングを実施する上で、まず、教員が理想的なファシリテーションをイメージすることは必須であるが、多くのファシリテーター養成講座は自らがファシリテーターとなる体験型で、プロのファシリテーターによるファシリテーションの実際を見る機会はまれである。そこで、本事業では、理想的にファシリテートされた授業を外部から観察する機会を設ける。これによって、現実的な授業改善の一つの目標をイメージすることができる。外部講師による講義の見学と振り返りやワークショップを通して教員のファシリテーション能力を向上させることが本事業の目的である。

2 実施状況

上記の目的を達成するために、本事業では、教員が見学するための外部講師による講義の実施、ふりかえり、プロのファシリテーターをいれた教員対象のワークショップ(FD交流会)を実施した。事業の実施状況は以下の通りである。

2-1 講義の見学

見学対象の講義としては、NPO これからの学びネットワーク理事・ディレクターの河野宏樹氏を講師に迎え「コミュニケーション講座」を行った。多くの教員が見学できるように同じ内容のものを木曜日と金曜日に行った。対象は本学学生で、定員は20名、各90分で、会場はアクティブ・ラーニングに適した広島キャンパスのラーニング・コモンズを選択した。講義は全三回で、それぞれのテーマ、概要は以下の通りである。

第一回「傾聴とコミュニケーション」 コミュニケーション概論のミニ講義、自分マップの作成、傾聴のグループワーク。第二回「グループプロセス」 グループで、少ない情報を元に協力して課題達成するグループワーク、グループプロセスやファシリテーションについてのミニ講義。第三回「ファシリテーション」 ファシリテーター役を決めてグループで話し合う・ふりかえり・フィードバック

ク。

講義後、見学した教員とファシリで質疑応答を行った。また、参加できなかった教員向けに動画を記録し、DVDを作成し、希望者に貸し出しを行った。

2-2 アクティブ・ラーニングの観点からの授業改善のためのワークショップ

講義の見学をした教員、見学はできなかったが積極的にアクティブラーニングに取り組んでいる教員を集めて、「FD交流会：学内でのアクティブ・ラーニング型の取り組みの成功例・失敗例をシェアしよう」を実施した。この交流会には、前述の「コミュニケーション講座」の講師にファシリテーターとして参加してもらい、ファシリテーションのありかたを学習する場としての役割も持たせた。

交流会は、3月24日（木）に広島キャンパスのラーニングコモンズで開催し、2キャンパス4学科から参加があった。各教員のアクティブラーニングへの取り組み、成功例・失敗例をシェアした。キャンパスや学科を越えて意見を交換し合う貴重な場となった。

3 成果と課題

本事業の成果と課題は以下の通り。

コミュニケーション講座は学生には好評だったにもかかわらず、見学した教員が少なく、教員側の意識変革が課題として残った。交流会は、学内でのアクティブラーニング型授業の成功例・失敗例・教員の悩みをシェアする貴重な場となり、教員同士が支え合い・学び合う仕組みの構築に寄与できたと考えられる。